

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校生徒の約6割が東日本大震災による家屋全壊等の被害を受けている。現在も山田線の復旧工事が続く中、生徒らはバス利用等での通学をやむなくされている。卒業後も本校生徒のほとんどは、地元に残り地域の産業に従事している。

被災地で生き、今後の郷土を支える人材を育成するために、全校での防災体験学習及び避難訓練等を通じて、直面する災害に対して的確に判断し行動選択ができることを目標とした防災教育について学ぶ。また、東日本大震災で被災した方々との交流活動を通して学校独自の復興教育やボランティア活動等に取り組む。

（3）防災体験学習

岩手県立総合防災センターで全校生徒対象に「防災体験学習」を実施した。炊き出し体験、暗闇・煙体験、AED・応急処置訓練、地震体験、ロープワーク等の体験学習を行った。

地震体験においては震度4～7までの地震や、過去の大地震を再現した疑似体験を通して、地震に代表される自然災害の恐ろしさを体感し、改めて災害への備えの必要性を学ぶ機会となった。また、センター職員より日頃の防災に向けての備えについて具体的に説明していただいた。

II 取組の概要

（1）避難訓練1（地震想定）

本校は、釜石高等学校全日制、定時制、釜石祥雲支援学校の3校で校舎を利用している。年に1度、3校合同での避難訓練を実施し、各校の利用施設や避難経路の確認を行っている。避難訓練当日は、雨天であったため体育館を避難場所としておこなった。本校生徒には精神疾患等を抱える生徒が各クラスにいるため大人数の生徒が集まった時の生徒への配慮の仕方について職員が確認する機会となった。

（2）避難訓練2（火災想定）

定時制単独での実施。火災を想定して、火災元「どこで」を放送でしっかりと聞いた上で避難すること、避難の際には窓は閉めずに開けたままで、ハンカチ等で口を覆って避難するよう具体的に指導した。また、階段を使用できなかった場合を想定して校舎4階からの降下訓練も行った。

（3）全校ボランティアの実施

生徒会活動の一環として本校では隔年で全校ボランティアを実施している。今年度は近隣の仮設（甲子町第2仮設）を訪問し、草取り及びゴミ拾いを行った。

III 取組の成果と課題

1 避難訓練について

3校合同実施の避難訓練については、各校の安全な避難経路や避難状況を確認する上で有意義であった。災害時は避難場所へ大人数の生徒が集まる事になる。集団が苦手な生徒、精神疾患を抱えている生徒を事前に確認し担任・学年団、養護教諭等で災害時の避難に関わる人員的な「そなえ」が必要であると感じた。

定時制単独での火災を想定しての避難訓練では放送の指示を良く聞き取り、落ち着いて避難することができた。毎年実施している訓練であるが消防署の方の講評を聞くことによって避難時の注意事項を具体的に確認するとともに防災についての意識が高まった様子であった。

【生徒アンケート】から 避難訓練2 (火災想定)

◆消防署の方の話を聞いて分かったこと・考えたこと

- ・放送の指示により机の下に隠れるときは、机の脚をつかんでいること、避難する時は頭、その次に足を守るようにすることが大切だということがわかった。
- ・地震が起こった際はその後、火事にならないように電気を切っておくことが大切だということを知ることができた。

◆避難訓練を通して感じたこと、考えたこと

- ・東日本大震災という凄まじい体験をしたとはいえ記憶は薄れていくものなので、避難訓練を通じて災害についてのそなえを毎年思い返して、もしもの時に正しい行動をとれるようにしていきたい。
- ・地震や火災などの災害の状況に応じて避難方法が変わってくるのでその時の状況に応じて臨機応変に行動することが必要だということを学ぶことができた。
- ・自宅や学校、近隣の商業施設などにいた場合の自分の避難場所を確認していくことが必要だと思った。

2 防災体験学習について

- ・東日本大震災後7年という月日が経過し、復興事業が続くなか、生徒達の震災の記憶はどのように変容しているのか、日常の生徒達の様子からは計り知れることはできない。そうした中、本校では生命の大切さや自然災害への理解を深めること等を目的に年1回、全校生徒対象に防災体験学習を実施している。
- ・防災体験学習は毎年実施しているため、県総合防災センターの協力の下体験内容を前年度と異なる内容を取り入れてもらっている。
- ・今年度は、過去の大地震を再現した大地震の疑似体験では、揺れの強さ・長さに驚くとともに落下する物の衝撃の大きさなど災害時の危険に直に触れることができ、震災時のことを思い出すと共に「そなえ」の必要性を実感できた。

- ・一昨年から実施している「炊き出し体験」では非常時に身近な物を利用して煮炊きする際に役立つ内容であった。



「防災体験学習」ロープワーク体験学習の様子

3 ボランティア活動について

- ・本校では、東日本大震災により全壊した家庭も復興住宅等に転居しており、現在仮設住宅に住んでいる生徒はいない。今年度の全校ボランティア活動では近隣の仮設住宅を訪問して草取りやゴミ拾いを行った。被災し今なお仮設住宅で生活している方々のために今の自分たちが出来ることを2時間あまりという短時間ではあったが懸命に取り組むことができた。地域の方々との生活に触れ、奉仕の喜びを感じ得る機会となった。
- ・この活動を通じて生徒からボランティア活動をしたい」という声も聞かれるようになり来年度は総合的な学習の時間にボランティア活動を積極的に取り入れる予定でいる。



「ボランティア活動」仮設住宅での草取りの様子